

主体的・対話的で深い学びが期待できる「考える道徳」

－新内容項目「よりよく生きる喜び」の実践－

“Moral thinking” that you can expect

“subjective, interactive and deep learning”

－The practice of moral leaning for new moral value of “a pleasure to live better”－

増井 眞樹

Maki Masui

要旨 (Abstract)

平成 29 年 3 月 31 日に小中学校の新学習指導要領改正の通知が出され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の趣旨が示された。平成 30 年度から教科になる道徳科についても敷衍されている。本稿では、まず、答申はじめ道徳教育・道徳科の目標に基づき、道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の意義を考察する。次に、改訂の道徳科の目標には、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」と示されており、小学校高学年には「よりよく生きる喜び」という内容項目が新しく加えられたことから、内容項目「よりよく生きる喜び」に注目し、その道徳的価値を児童の言葉で表現してみる。最後に、教材「青の洞門」を通して「主体的・対話的で深い学び」が期待できる「考える道徳」の実践を提案する。

キーワード：「主体的・対話的で深い学び」・「考える道徳」・「よりよく生きる喜び」・道徳教材「青の洞門」

I. はじめに

これからの時代の道徳教育においては、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら考え、他者と対話し協働しながら、よりよく生きるための道徳性の育成が求められている。平成 27 年 7 月に公示された「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」では、多様な価値観に誠実に向き合い、考え続ける姿勢を持ち、児童生徒が「考え、議論する道徳」への転換が示されている。さらに、平成 28 年 12 月の『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』には、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の趣旨が示された。加えて、「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）」、「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現等）」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）」といった三つの柱で資質・能力を捉えている。

つまり、「主体的・対話的で深い学び」を通して、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現等」、「学びに

向かう力、人間性等」といった資質・能力を育てるというのである。では、道徳科における「主体的・対話的で深い学び」とはどういうものなのか前述の答申から着想してみたい。

Ⅱ. 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』（2016年12月）の道徳科に関する内容の概要（下線は筆者）

1 道徳教育の目標の在り方

○道徳教育と道徳科の目標を統一

「よりよく生きるための道徳性を養う」

○道徳科の目標「道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」（ ）内は中学校版。

○道徳教育と資質・能力の三つの柱との関係については、道徳教育・道徳科の学習の過程に着目して、道徳性を養う学習を支える重要な要素である「道徳的諸価値の理解と自分自身に固有の選択基準・判断基準の形成」、「人間としての在り方生き方についての考え」及び道徳教育・道徳科で育成することを目指す資質・能力である「人間としてよりよく生きる基盤となる道徳性」の三つが、各教科等で育成することを目指す資質・能力の三つの柱にそれぞれ対応するものとして整理することができる。

2 道徳科における「見方・考え方」

○「考え、議論する道徳」を目指す道徳科における「深い学び」の鍵となる「見方・考え方」は、今回の改訂で目標に示されている、「様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること」であると言える。

3 具体的な改善事項

○「道徳的諸価値の理解を基に」とは、自分自身の生き方について考えたり、体験的な学習を通して実感を伴って理解したり、道徳的問題について多面的・多角的に捉えその解決に向けて自分で考えたり他者と話し合ったりすることを通じて道徳的諸価値の理解が深まっていく。例えば、社会のルールやマナー、人としてしてはならないことなどについてしっかりと身に付けさせるだけでなく、これらを通して道徳性を身に付けること。

○小学校では、第1・2学年に「個性の伸長」、「公正、公平、社会正義」、「国際理解、国際親善」を、第3・4学年に「相互理解、寛容」、「公平、公正、社会正義」、「国際理解、国際親善」を、第5・6学年には「よりよく生きる喜び」の内容項目を追加した。

○いじめへの対応や、情報モラル等の現代的課題などへの対応の充実が図られた。

○「主体的・対話的で深い学び」の実現

社会で生きて働く知識や力を育むために、「何を学ぶか」に加えて、「どのように学ぶか」という、学びの過程に着目してその質を高めることにより、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにしていくことが重要である。「どのように学ぶか」の鍵となるのが、すなわち「主体的・対話的で深い学び」をいかに実現するかという学習・指導改善の視点である。道徳教育においては、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育むため、道徳

的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」を実現することが、「主体的・対話的で深い学び」を実現することになると考えられる。

- 「考え、議論する道徳への転換」に向けて求められる質の高い多様な 指導方法の例示
- 「主体的な学び」の視点からは、児童生徒が問題意識を持ち、自己を見つめ、道徳的価値を自分自身との関わりで捉え、自己の生き方について考える学習とすることや、各教科で学んだこと、体験したことから道徳的価値に関して考えたことや感じたことを統合させ、自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫することが求められる。
- 「対話的な学び」の視点からは、子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えたり、自分と異なる意見と向かい合い議論すること等を通じ、自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりすることが求められる。
- 「深い学び」の視点からは、道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える学習を通して、様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を育てる学習とすることが求められる。
- 道徳的な問題場面には、
 - ⑦道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題、⑧道徳的諸価値についての理解が不十分又は誤解していることから生じる問題、⑨道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題、⑩複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題などがあり、これらの問題構造を踏まえた場面設定や学習活動の工夫を行うことも大切である。

Ⅲ. 道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の具体

前述の答申から、「自己との関わりで、多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考える学習」が「主体的・対話的で深い学び」の実現につながることや、その実現に向けては「考え 議論する」ことが重要であることが明確になった。また、道徳科では、その学習過程から、「道徳的諸価値の理解と自分自身に固有の選択基準・判断基準の形成」、「人間としての在り方生き方についての考え」及び「人間としてよりよく生きる基盤となる道徳性」の三つが、各教科等で育成することを目指す資質・能力の三つの柱にそれぞれ対応するとしている。つまり、「道徳的諸価値の理解と自分自身に固有の選択基準・判断基準の形成」は「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）」と、「人間としての在り方生き方についての考え」は「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現等）」と、「人間としてよりよく生きる基盤となる道徳性」は「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）」に対応しているというのである。「主体的」「対話的」「深い学び」のそれぞれに分けられるのではなく「主体的・対話的で深い学び」を一つとして捉えるとあるが、整理することで捉えやすくなるだろうと推察し表作成を試みた。

そこで、『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』（平成 28 年 12 月）の道徳科に関する内容に基づき児童生徒の姿を考察する。表 1 で

| | 答申における キーワード | 道徳科の学習活動 | 児童生徒の姿 |
|------------------|-----------------|---|--|
| 主体的 | 問題意識 | 身近な課題に関心を持つ。(興味関心・考える必然性が大事。本物・現実・実際の場面) | 身の回りの事象を見つめ、問題を見過ぎさない。(c) |
| | 自己を見つめる | 伝統文化・先人の業績や生き方に学ぶ。美しいもの気高いものに触れる。 | 事象と自分との関係を考える。自分の本音はどうか見直す。(c) |
| | 自分事と捉える | 問題解決的学習を通して、自分事として課題を考え、考えを明らかにする。 | 自分ならどうか、自分のできることを考える。事象への実感(b) |
| | 自己の生き方を考える | 話し合い活動を通して、異なる考えに触れ他者を相互に認め合う。 | 納得できる自分の生き方を考える。(c) |
| | 道徳性を養う | 共によりよく生きるための判断力、よりよく生きようとする心情、意欲、態度を高める。 | 主体的によりよく生きるための道徳性を身に付けようとする。(c) |
| | 振り返り | 過去の課題を振り返り現在の自分を明らかにする。(ポートフォリオ) | 自分の成長を振り返る。(a) |
| | 今後の課題・目標 | 授業の振り返りから新たな課題を見つける。 | 事象に対する自分の考え方・生き方から新たな課題・目標を見つける。(b)(c) |
| 対話的 | 子ども同士の協働 | 話し合い活動(問題解決的学習)では、みんなによりよい考えを創るという意識を持って進める。実践できない人間の弱さを知る。 | 自分の考えに理由をつけて発言する。他者の考えを理解する。道徳的価値を理解する。(b) |
| | 教員や地域の人との対話 | 先人の考えにふれて道徳的価値の理解を深める。価値が大切であることを知る。 | 異なる立場の考えを聞く。道徳的価値を理解する。(a) |
| | 自分と異なる意見と向き合い議論 | 葛藤場面で多面的・多角的に考え、他者を相互に認め合う。価値に対する考え方は様々であることを知る。 | 道徳的価値を理解する。(a) |
| | 道徳性を養う | よりよい社会に向けて、将来役立つ資質能力を高める。 | よりよく生きるための道徳性を身に付ける。(c) |
| 深い学び (見方・考え方) | 自己を見つめる | 伝統文化・先人の業績や生き方、美しいもの気高いものを受け止め、自分との関わりについて考える。 | 事象と自分との関係を考える。自分の本音はどうか見直す。(c) |
| | 多面的・多角的に考える | 価値実現の問題状況を把握する。 | 反対の立場・角度から考える。(b) |
| | 自己の生き方を考える | 適切な実践の資質・能力を育成する。 | 納得できる自分の考え方・生き方を探る。(c) |

(表1) 道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の児童生徒の姿

は、(a)「何を理解しているか、何ができるか(知識・技能)」、(b)「理解していること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現等)」、(c)「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力・人間性等)」を(a)(b)(c)とし、記号を児童生徒の姿の欄に記している。

「深い学び」には、道徳的な問題場面として、①価値の不実行②価値理解不足③価値実行の葛藤④複数価値の対立があり、これらの問題構造を踏まえた場面設定や学習活動の工夫の必要性も述べられている。

一方で、多様な意見を受け止め、認め合える学級の雰囲気が大切で学級経営が重要である。しかし、学級経営が整ってから道徳科の授業を行うということにはなり得ない。道徳教育・道徳科の授業と学級経営は車の両輪であり、学級経営を構築しながら、道徳科の授業は進められなければならない。

IV. 内容項目「よりよく生きる喜び」について

第5学年及び第6学年の内容項目に「よりよく生きる喜び」が新設された。小学校の内容項目の最後の22番目に示されている。特記すべきことは、道徳科の目標にも「道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」(下線筆者)と「よりよく生きる」という文言が際立っている。

小学校学習指導要領解説書における「よりよく生きる喜び」の解説には、つぎのように説明されている。「よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。人間は本来、よりよく生きようとする存在であり、そのために人間性をより高めようと努めるすばらしさをもっている。一方で、人間は決して完全なものではない。(略)ここでいう人間として生きる喜びとは、弱い自分を乗り越えるだけでなく、自分の良心に従って生きることであり、人間のすばらしさを感じ、よりよく生きていこうとする深い喜びである。(略)」そして、内容項目の「自主、自律、自由と責任」「節度、節制」「向上心、個性の伸長」「希望と勇気、克己と強い意志」「真理の探究、創造」と、どれをとっても「よりよく生きる喜び」に関わりがあるのではないだろうか。内容項目の視点AのみならずBからCのすべての道徳的価値を集約した内容が「よりよく生きる」に当たるのではないだろうか。人間の生き方の最終目標に関わるのではないだろうか。

一方、梶田がもっとも大切にしていた価値が「よりよく生きる喜び」ではないかと推察している。梶田は、「道徳教育の新たな充実・発展のために」の中で、「内容項目の主として自分自身に関すること」について更に加えて指導したいものとして次の7点を述べている。

- 自分の欲求や衝動を抑え、統制する力をつける。
- 自分自身の欲求や利害を中心に考え行動する利己心を抑え、統制する力を付ける。
- さまざまなことについて旺盛な好奇心を持ち、常に情報を探索し学んでいこうという気持ちを持つ。
- 眼前の課題について集中する力を付け、粘り強く取り組んでいく力を持つ。
- 自分自身の「実感・納得・本音」を大事にし、自分に本当にそう思えることを何よりも大事にする、といった自分自身への誠実さを持ち続ける力を持つ。
- 失敗したり物事がうまくいかないとき、また気持ちが落ち込んだりしたとき、自分を受容し、支え、

上手に励ましていける力をつける。

○どんな困難があっても実現していきたいという自分なりの夢や志を持つ。

これら7項目は、「よりよく生きる喜び」の価値につながるものと考えられる。特に「実感・納得・本音」のある生き方は、これまで梶田が大学の授業を初め、書籍や講演など多くの場で述べてきたものである。「自分事と捉え、事象を実感する」、「納得できる自分の生き方を考える」「自分の本音はどうか見直し自己を見つめなおす」という知行は、道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の実現につながるものではないだろうか。

そもそも「よりよく生きる喜び」について、児童生徒はどのように考えているのであろうか。それを探るために、小学校・中学校・高等学校と経験してきた学生にとっての「よりよく生きる喜び」とは何か調査を試みた。

1 調査方法

(1) 使用ワークシートの設問

学習指導要領解説「特別の教科 道徳」の内容項目「よりよく生きる喜び」の解説を読んで、あなたにとっての「よりよく生きる喜び」とは何か。これまでの経験を踏まえて考えを書きましょう。

(2) 対象

奈良学園大学学生 平成29年度後期講座「道徳教育の指導法B」の受講者 3年生 84名

2 結果 内容毎に分類し、エピソードは省略。

(1) 達成・承認されたとき 5名 (6%)

自分の有用感、自信、達成感を感じた時である。

○日々の悩みや苦しみ、課題などを試行錯誤して取り組みその成果を他者に認めてもらうことだと思う。自分の存在が人の役に立っているのだと喜びを得ることができた時

○成長しようとして頑張り達成できたとき。自信のあるものが増えていくこと

○一生懸命いろんなことにチャレンジしてうまくいったとき

○達成感を得た時

○当たり前の日常の行動が当たり前になって自信がついた時

(2) 弱さを乗り越えたとき 17名 (20%)

部活での苦しい練習や人間関係に悩み、結果につながったエピソードが多い。

○努力すること。自分の課題と向き合い、辛いことやしんどいことに立ち向かったり、克服したりするために努力できたとき。たとえ結果が出なくてもその姿勢で物事に取り組めば良い気分になったり人間として強くなったりする。

○悩み続けたり、自分の弱さを目の当たりにしたりして、本当に苦しい時に乗り越えて目標を達成、夢を実現すること

○様々な障害や困難によくぶち当たる。そのたびに悩み、苦しみがく。しかし、これを越えたときに自分の自信になり強みになったとき

○内的な弱さという概念を少しずつでも改善いつしか将来につなげられる喜びのある生き方として認められるようになったとき

○自分が今までできなかったことなどができるようになったり何かを乗り越えて過去の自分からの成長を実感できた時

○何かの壁にぶち当たったり、もうなにもかもが嫌になってしまったりした時にそこから立ち上がる時

○自分の弱いところを認め、それを乗り越え、自分の良心に従って生きるとき

○つらいことに立ち向かいながら、自分の理想や夢へと近づいていく時

○乗り越え誇りを感じることを通して生きることへの喜びを感じる時

○悩み悲しみ苦しみ良心の呵責と戦いながら自分の弱い部分を乗り越えた時

○自分だけでなく周囲に気配りができ、周囲と共に困難を乗り越えていく時

○様々な課題を解決するために努力したところ納得できる結果になった時

○弱い自分の存在を意識し、乗り越える時

○失敗を繰り返し、そして成功すること。

○大きな壁を努力して乗り越える時

○弱さを乗り越え、強くなる時

○苦しいことをした後の遊び

(3) 努力の過程 13名 (15%)

結果は出せなかったが、努力していくことの心地よさを感じている。部活よりも勉強に関するエピソードが11名

○自分で決めた高い目標に近づく、それを達成しようとする過程、結果にとらわれず、充実感で満たされた時

○目標を持ちそれに向かって努力するとき

○あきらめず協力して勝ちにつなげ、また目標に向かって進むとき

○目標を立ててその目標を達成しようとする努力・過程一生懸命頑張っていること

○目標を持って生きるとき

○目標に向かって努力すること

○夢に向かって努力を重ねることで得られるもの

○自分の中の求めていることを見つけ出し、それを現実化できた時

○best より better を考えて行動すること 努力すれば叶うことへ努力する時

○たくさんの経験を通して失敗、挑戦すること

○自分がなりたい自分、理想に向かっていく過程

○何事も一生懸命に取り組むこと

○回り道をしてでも自分自身が最後までやり抜くと決めたことをやりつづけること

(4) 自己理解 26名 (32%)

自分の生き方・考え方を問い、弱い自分にも向き合い認めている

○努力したことが報われた時や設定していた目標が達成した時 悩んでいる問題が解決できた時 自分が一人じゃないと感じた時 自分の存在意義を感じた時

○己の弱さと向き合いそれを受け入れた上で自己を高めようと努力し弱さと共に生きていく中で見つける自身の

成長

- 命がある。自由がある。つまり、「死にたい」という弱さから「生きたい」という強さに変換した時
- 人として持っている強さや気高さに気づくことができ、自分自身の可能性を自覚すること
- 良い経験だけで感じられるものでなく、失敗や苦しみを感じる。自分のことを自分で理解する。
- 弱い自分を乗り越えるだけでなく 自分の良心に従って生きること
- 自分の良心に従っていきること。自分のやりたいことだけでなくつらいこととして行く時
- 自分の良心に従い、人間のすばらしさを感じたとき
- 自分が少しでも良いと思えるような生き方。それに少しでも近づいていると感じる時
- 自分の弱さを知り、他人や自己の刺激によって良い方向に向上し続けること
- 人として、考え方や態度が成長していると自分で感じられること
- 誰かの期待に沿うだけでなく、自分に正直に人生を送ること
- 野球人としても人間としても尊敬されるような人になること
- 武道を通して、人間性を学び、人間的に成長すること
- 喜怒哀楽を始め、様々な感情を乗り越えて、そのような自分を受け入れられること
- 楽しいこと、悲しいこと、悔しいことなど様々な感情に触れること
- 自分の良いところも悪いところも丸ごと好きになる
- 自分の強さも弱さも含め受け入れること
- 常に自分のことを考え見つめ直すこと
- 自分の弱い部分を受け止めることができたとき
- 人の弱さを理解し、受け入れる力
- 自分の中で頑張ったと思えるとき
- 他者を思い自分を知ること
- 自分を認め、他人を認めること
- 人間としてのあり方を学んだ時
- 人間らしく生きる

(5)共生 12名 (14%)

友達がいることのすばらしさを実感している

- 他人と共生
- 誰かと共にいきること 私は自分自身を見つめ自分自身を知ろうとしている。その中で弱さをたくさん見つけるが、そんな自分を求めてくれる人がいることこそ一番の喜び。
- 信頼してくれる友達がいて私自身も信じる時
- 共に歩んでくれる友達を得た時
- 人と助け合い、すぐに諦めないこと
- 率直に「ありがとう」「ごめんね」と言える人間関係ができたとき
- 一緒にいて楽しい友達という時

- 悩みを抱え、立ち止まってしまっても一人で何とかするのではなく、友達と悩みを解決しながら歩いていく人生
- 人と関わることで自分自身に刺激を与え続けること
- 他者と共に生きていることを自覚するとき
- 人との関わりを持って生きるとき
- 人と関わる時

(6) 人のために 5名 (6%)

これまでの経験や考えから、人のために尽くすことが大切だと考えている

- 弱さや強さ自分の良心に従う等だけでなく、これまで生きてきた経験を振り返って気付いた自分以外の人にとって良いこと悪いことを考え直す必要がある。そこから考えられる人のための幸せを行ってみたりしたことのない経験をしようとして自分を含め人々が過ごしやすい環境にできること
- 国境や性別、生死を越えた幸せとは何なのかについて生涯追求し続け、周囲に訴えていき、世界の平和に力を貸すこと
- 後悔しないように、困っている人や生き物に手を差し伸べる時
- 誰かの為に何かをして助けになり、支え合い笑顔で過ごせること
- 人の為に働き、人を喜ばせ、自分自身も充実するとき

(7) その他 6名 (7%)

「考えたことがない」 ささやかな喜び

- 当たり前の日常を過ごす中にちょっとした変化があること
- 今を楽しむ。悲しいこと、辛いことがあっても「今を楽しもう」とすること
- 毎日ストレスなく楽しい生活を送れること
- 何気なく過ごせる生活を営める時
- 自由に生きること
- 考えたことがない

学生の「よりよく生きる喜び」は、人間の強さや人間性を高めようと努めるすばらしさ、人間の弱さ、不完全さについては理解し、実感している学生は 56 名 (66%) である。しかし、「弱い自分を乗り越えるだけでなく、自分の良心に従って生きること」「人間のすばらしさを感じ、よりよく生きていこうとする深い喜び」については、18 名 (21%) しか理解・実感していないと推察される。「たとえ、結果が出なくても、辛いことやしんどいことに立ち向かう姿勢で取り組む」「弱さを乗り越えたとき、自信になり強みになる」「弱さを将来につながる喜びと認められるようになる」「成長の実感」「良心に従う」「乗り越え誇りを感じる」「良心の呵責と戦う」「弱さと戦う自身の成長」「少しでも良いと思える生き方」「自分に正直に生きる」「人のために尽くす」「世界の平和をめざす」「人のために生きる」などが挙げられるが、どれも自分自身に向き合い、寡欲である。しかし、「考えたことがない」や目先の楽しさに目を向けている学生は 6 名 (7%) であった。この実態を見ると、小学校高学年には、難しい内容項目ではないだろうかと考えられ

る。一方で、「平成 25 年小学生・中学生の意識調査」によれば、「人の役に立つ人間になりたい」という項目について、「そう思う」が 75.6%という結果で、平成 18 年の調査に比べ、20 ポイントも上昇しているとのことである。平成 18 年と言えば、調査対象の学生が小学生の時期である。最近の小・中学生の意識が「よりよく生きる」ことへ傾いていることは、新学習指導要領が示している「変化に対して主体的に向き合い関わり合って、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手」を期待できるものである。「よりよく生きる喜び」が小学校高学年に新設されたことを鑑み、「目先の幸せでない、人としてよりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はどのように生きるべきかなどについて考えを深める」学習が今後一層重要になると考えられる。

V. 内容項目「よりよく生きる喜び」の教材

平成 30 年度から道徳科の教科書が導入される。第 5・6 学年に新しく加えられた内容項目「よりよく生きる喜び」の教材として挙げられているのが、第 6 学年の教科書では、表 2 のとおりである。「感動・畏敬の念」と「よりよく生きる喜び」の両方に掲載されているのは、「青の洞門」と「マザー・テレサ」で、「青の洞門」は 8 社のうち 6 社が掲載している。平成 30 年度からは全国の多くの第 6 学年の児童が「青の洞門」を使った学習をすることになる。

そこで、掲載数の多い「青の洞門」を取り上げてみる。「青の洞門」は「感動・畏敬の念」で扱っているのが 5 社、「よりよく生きる喜び」で扱っているのは 1 社であった。「青の洞門」は、これまでは「感動・畏敬の念」で扱われることが多かったが、平成 30 年度から新しく加えられる内容項目「よりよく生きる喜び」で挑戦してみたい。なぜなら、「青の洞門」の主人公了海の行動に感動し、畏敬の念を感じ、そのことで人間の強さや気高さに気付き、よりよく生きる喜びの理解につながると考えられるからである。

| | 感動・畏敬の念 | よりよく生きる喜び |
|-------|-------------|--------------------------------|
| 東書 | 夜空～光の旅 青の洞門 | 義足の聖火ランナー クリス・ムーン |
| 学研 | 美しいお面 | 小川笙船 青の洞門 |
| 学図 | 青の洞門 | マザー・テレサ |
| 光文 | 青の洞門 | マザー・テレサ |
| 光村 | マザーテレサ | まどさんからの手紙 こどもたちへ 一さいから百さいの夢 |
| 日文 | 青の洞門 | スポーツの力 のぼさんの夢—正岡子規— |
| 教出 | 百一才の富士 | 日本を守るために 6 千人の命のピザ |
| 廣あかつき | 青の洞門 | 花のき村と盗人たち |

表 2 教科書に掲載されている「感動・畏敬の念」「よりよく生きる喜び」に係る教材一覧

VI. 「青の洞門」の指導案

1 主題名 人の役に立つ生き方 D- (22) よりよく生きる喜び

2 教材 「青の洞門」 (出典：新しい道徳6 東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

「よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じること」と解説書には説明されている。この価値を小学生の考え方や生活に合わせてみると、「普通の人間ではできないようなことを成し遂げる行動を通して、人間の強さや気高さ（人間の心を越えた素晴らしさ）の中の生きる喜びを理解し、自分の生き方を振り返り、見つめ直すこと」だろうか。また、自分の弱さを実感し、受け入れた上で乗り越えていくことも必要だろう。変化する社会の将来を見据えた時、良心に従い、自分らしく、納得する生き方に喜びを見出し、他者と共によりよい社会を目指すことが求められている。それゆえ、この価値はこれからの時代に生きる児童に必要で重要なものである。

(2) 児童について

納得を考えないで行動する低・中学年の時期と違い、進路も含めて多様な節目を迎える高学年では、自己中心的な考えを持ち始める児童も見受けられる。特に、家庭の影響を受けることが多く、仲良しの友達には好意的であっても、それ以外の友達や広くみんなのために自分の力を出すことには消極的な場合もある。自分のことで精一杯であり、他人のことまで考えが及ばないのであろう。一方で、自身の弱さを認めた上で、客観的に判断できる力と実行力を身に付けて、誠実、公正で主体的な行動を示す児童も見られる。授業の中では、了海の生き方や実之助の行動に迫るとともに、人の役に立つ喜びを理解している児童の考えに触れさせ、自分の考え方や生き方を見つめ直す機会を持たせたい。

(3) 教材・指導について

教材は長文であるので、事前に読ませ、自分なりの課題を持たせる。その上で、了海の生き方について考えさせる。了海は普通の人間ではできないようなことを成し遂げて、「これで村の人の命を救える」「この上は実之助に殺されてもいい」と思っている。つまり、自分の生き方でよかったと納得しているのである。了海が自分のなせる業に納得し、「よりよく生きる喜び」を抱いていることに気付かせたい。また、それほどの偉業であるからこそ、実之助が了海を討てなかったのではないだろうか。この教材では、了海と実之助の生き方から人間の強さや気高さを感じさせ、二人が抱いた「よりよく生きる喜び」を理解させ、自分の考え方や生き方を振り返ることができる教材であると考えられる。

指導に際しては、了海の立場、実之助の立場を対比させ、多面的・多角的に考え、グループでの話し合いを活用しながら、よりよく生きる喜びの大切さに気付かせる。そして、了海や実之助の成しえたことと比べながら、一人一人がこれまでの自分を振り返り、生き方に向き合えるように進めたい。

4 本時のねらい

了海の生き方を通じて、人間の強さ気高さに感動し、人の役に立つ喜びに気づき、自分の考え方や生活を見つめ直そうとする心情を養う。

5 本時の展開

| 発問と予想される児童の考え | 補助発問と指導上の留意点 |
|--|--|
| <p>1 「青の洞門」の課題を見つける。</p> <p>「青の洞門」を読んで、みんなと話し合いたいことは？</p> <p>(ア) 了海はなぜ、洞門が完成するまで頑張ることができたのか。</p> <p>(イ) 了海がどんなことをしても、了海の罪は消えないのではないか。</p> <p>(ウ) 実之助はなぜ了海を討たなかったのか。</p> <p>2 課題について話し合う。</p> <p>洞門の完成までの了海と(実之助)を振り返ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・罪のつぐないのために、僧となって、苦しい修行にはげみ、多くの人に役立とうと諸国をめぐり歩いた。 ・寄付を求めた。 ・一日も休むことなく、つちをふるった。 ・指図だけと言われても、つちをふるうのをやめなかった。 ・潔く切られようとした。(村人の願いを聞き、仇討を待つ) (仇討の日が早く来るように、了海を手伝った) ・実之助の手を取って、山国川の流れを見せた。 ・完成した時、むせび泣いた。(仇討ができない) <p>洞門の完成まで、困難を乗り越え、頑張れたのはなぜか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・罪の償いに、命をかけてなすべき仕事であるという決心 ・僧になって、修行として頑張った。 ・人の命を救いたいという意志が強かった。 ・やり始めたことは、何としてもやりとげたかった。 ・洞門を完成させたかった。 ・自分の欲とか全てを消して、ただ一心になった。 <p>3 授業を振り返り、考えをまとめる。</p> <p>了海の生き方を通して、気づいたこと、考えたことをまとめよう。 自分の生き方と比べ、今後活かせることはないか考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命がけで人のために働くことを、喜び(よりよく生きる)と感じる人間のすごさ(すばらしさ)に気づいた。自分にも他の人にも簡単にできることではないと思った。自分の周りには、こんな人はいない。 ・了海は、自分の失敗を乗り越えて頑張った結果や人の役に立つことが成功した時に喜びを感じる生き方であると気づいた。自分のことばかり考える喜びではなく、少しまわりのことも考えて、自信はないが、人のために役立つことを喜べる生活ができるようになりたい。 | <p>補助発問と指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に本文を読ませ、課題とすることを見つけさせる。 ・小グループで話し合い、他の人の考えと比較し、理由を付けて自分の考えを明らかにさせる。 ・(ア)(イ)(ウ)の課題に触れながら、「よりよく(人の役に立つ)生きる喜び」について考えることに向かわせる。 ・了海の働きは、壮絶であったことを確認させる。 ・「了海はなぜ、そんなに大喜びしたのか」を考えさせる。罪を償うことができた喜び、人の命を救える喜び、自分の決意が成就した喜びを気づかせる。 ・また、完成までの苦行の中に喜びはあったのか考えさせる。 ・洞門が完成するまで頑張ることができた原動力は、「人の命を救おう。人の役に立とう。」強い信念であるが、それは人間業とは思えないほどのことと理解させる。 ・了海の生き方は、良心に従ったものであったこと、また、その実行は難しく、そう簡単にできるものではないことに気づかせる。 ・了海の生き方と自分の生き方の違いを明らかにさせた上で、今後活かせることはないか考えさせる。自分には「できない」「したくない」と考える考え方も受け止め、自分に正直に向き合えたことを認める。 |

Ⅶ. おわりに

道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の実現は、「考える道徳」の実践であると考えられる。指導案は、道徳科の目標「道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。（中学校版）」に基づいて作成した。解説書の道徳性を養うために行う道徳科における学習の「道徳的諸価値について理解」の3点、道徳的価値はよりよく生きるために大切なことである（価値理解）、しかし、実行は難しく、できない人間の弱さがある（人間理解）、そして、実行するしないについては多様な考え方があり（他者理解）ことを展開の中で意識させた。その上で、事象を自分事として捉えさせ、話し合い活動などを活用して、多面的・多角的に考えさせる過程を盛り込んだ。問題解決の学習の手法を用い、主体的に取り組めるように、児童自身に話し合いたいこと（課題）を考えさせる。自分を振り返る場を設定し、児童と共に語り合い「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」道徳科の授業を目ざした。主発問は「了海の生き方を通して、気づいたこと、考えたことをまとめよう。また、自分の生き方と比べ、今後活かせることはないか考えてみよう。」とし、ここでは、児童はこれまでの話し合いを基に自分と向き合い書きまとめ、発表の時間とする。山場で、児童の活発な発言が見られないことに批判の声が出るだろうが、「よりよく生きる喜び」の価値を理解した考えを全体に示し、児童それぞれの心の中で今後醸成させていくことを期待していくこととした。

小学校高学年に新設された「よりよく生きる喜び」という内容項目は、これからの時代を担う者には不可欠であると考え、多くの現場での実践が期待されるのではないだろうか。

文献 (References)

- 1) 毛内嘉威「よりよく生きる喜び」『小学校 新学習指導要領の展開 特別の教科 道徳編 永田繁雄 編著者』2016 p92-93
- 2) 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』2016
- 3) 梶田叡一「人間としての成長・成熟を目指して－人間教育のために」金子書房 2016
- 4) 内閣府『平成 25 年度 小学生・中学生の意識に関する調査』2014